

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。



発生予察特殊報第 2 号

病 害 虫 名 キュウリ退緑黄化病

病原ウイルス名： ウリ類退緑黄化ウイルス (Cucurbit chlorotic yellows virus : CCYV)

作 物 名 キュウリ

発 生 地 域 京都府南部

1 発生経過

令和 5 年 1 1 月、京都府南部の 3 地域の施設内でキュウリの葉に退緑及び黄化症状を示す株が認められた。当所で RT-PCR 法による検定及び増幅産物の塩基配列を解析したところ、府内では未発生のウリ類退緑黄化ウイルス (Cucurbit chlorotic yellows virus : CCYV) による「キュウリ退緑黄化病」と判明した。本病は国内では平成 20 年に佐賀県、大分県、宮崎県及び熊本県で初めて特殊報が発表され、現在では 24 府県で確認されている。

2 病徴

発生初期は、葉に薄い緑色の小斑点を生じる (写真 1)。症状が進むと斑点が拡大し、葉脈に沿った部分を残して退緑し、葉全体が黄化する (写真 2)。黄化葉は、葉縁部が下側に巻く症状を呈する (写真 3)。本病害は、定植直後から収穫終了時まで発生するが、感染時期が早いほど黄化が進み、草勢が低下して減収する。

3 病原ウイルスの特徴

- (1) 病原は *Crinivirus* 属のウイルスで、タバココナジラミ (バイオタイプ Q 及びバイオタイプ B) により媒介される (写真 4)。
- (2) ウイルスに感染した植物を吸汁したタバココナジラミは数時間から数日間ウイルス媒介能を保持 (半永続伝搬) する。経卵、汁液、種子及び土壌伝染はしないとされている。
- (3) 本ウイルスは、自然感染ではキュウリ、メロン及びスイカで、接種試験ではウリ科、ナス科、アカザ科等、広範な植物に感染することが確認されている。

4 防除対策

- (1) 発病株は直ちに抜き取り、ポリ袋等に密閉してほ場外に持ち出し適切に処分する。
- (2) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。
 - ① 苗に寄生していない事を確認して、ほ場に定植する。
 - ② 施設の開口部に 0.4mm 目以下の防虫ネットを展張し、侵入を防ぐ。
 - ③ 近紫外線カットフィルムを使用する。
 - ④ 施設では、黄色粘着ロールや粘着板を活用する。
 - ⑤ 施設内及び周辺の雑草は発生源となるので、徹底して除去する。
 - ⑥ 周辺に分散させないため、栽培終了後に全株を地際から切断または抜根し、施設を密閉して死滅させる。
 - ⑦ 薬剤感受性低下を防ぐため、同一グループの薬剤の連用を避ける。



写真1 発病初期の葉の小斑点



写真2 病状が進行し葉脈間が退緑・黄化



写真3 葉縁部が下側に巻く症状の現れた株



写真4 媒介虫のタバココナジラミ